

令和5年度 日野市立七生中学校経営重点計画				自己評価シート				令和6年3月公表							
★学校教育目標								★重点計画の概要							
○自ら学び考え行動しよう ○責任と思いやりの心をもとう ○健全な心と体をつくろう															
★目指す学校像（ビジョン）								全ての生徒が「明日も学校に行きたい」と思えるために、 ・生命尊重、人権教育、いじめの根絶、体力向上に取り組む ・生徒にとって安心、安全な学校づくりを推進する。 ・「分かる授業」づくりを進め、確かな学力の育成と主体的な学びを育む。 ・ひとりひとりの生徒に合った特別支援教育の一層の充実を図る。 ・地域と学校が双方向で連携を深める。							
【めざす児童・生徒像】								①確かな学力を基盤に、将来の夢に向かって主体的に学び向上する生徒 ②礼儀正しく、真面目さや正義を大切にする生徒 ③思いやりの心を持ち、お互いが力を合わせてより良く生きようとする生徒							
【めざす学校像】								①生徒の健康・安全を提供できる学校 ②確かな学力と社会性及び人権尊重の精神が身に付く学校 ③生徒・保護者・地域から信頼される学校							
【めざす教師像】								①生徒理解に優れ、人権尊重の精神に基づいた教育活動を実践できる教職員 ②教育の専門家として、確かな指導力をもつ教職員 ③チームワークを大切にし、社会人として常議のある教職員							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策						
				評価点	取組指標		評価点			成果指標					
学び	確かな学力と主体的に学ぶ力の向上及び多様な学びへの対応	・新学習指導要領を踏まえた「主体的な学習活動を中心とした授業づくり」の推進 ・学び合いを通して、主体的に学習に取り組む態度の育成 ・学習者用端末を活用した主体的な学習活動の推進	・校内研究を充実させ、主体的な学習活動を取り入れた授業改善を推進する。 ・適正な学習評価による指導と評価の一体化の推進を図る。 ・学び合いや対話を取り入れた学習形態による主体性の育成を図る。 ・学習者用端末を活用した主体的な学習活動を展開し、事例の共有を行う。	4	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	3	4	生徒のアンケートで、90%以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について満足している」と回答した	・一人1台端末を活用した授業が日常的に行われており、生徒の興味・関心に沿った探究的な学習になっている。 ・身近な事象や出来事を題材とした授業が行われていて感心した。 ・将来、社会に出た時に働く上で必要な知識や実践的な力を育てていきたい。	約85%の生徒が日々の授業に満足している一方、改善を求めている生徒が一定数いることが分かった。一人1台端末の効果的な活用とともに、学び合いや対話による課題解決を意識し、生徒の主体的な学びを引き出すことができるよう、学校全体で授業改善を推進する。				
					3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒のアンケートで、80%以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について満足している」と回答した						
					2	70%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒のアンケートで、70%以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について満足している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70%に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「授業全体をとおして、内容や進め方について満足している」と回答した生徒が70%未満						
いのち	人権尊重の視点に立った教育活動の推進	・自他を認め合い尊重し合う学校風土の形成 ・いじめの未然防止と早期発見、早期対応 ・情報モラル教育の充実	・人権教育を推進し、お互いを尊重し合い、安心して学校生活が送れる学校風土を作る。 ・教職員の人権感覚を向上させ、言葉遣いに気を付けさせる。 ・生徒の言語環境を整え、自他を尊重する精神を培う。 ・「七生中学校いじめ防止基本方針」に基づき、定期的なアンケート実施や、生徒の様子について情報を共有することで、いじめ予防と発生時の迅速な対応を組織的に行う。 ・SNSに使い方について、道徳やセーフティ教室、東京SNSノートを活用し、継続的な指導を行う。	4	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	4	4	生徒のアンケートで、90%以上が「自分是人権を尊重して行動している」と回答した	・先生方が生徒一人一人の人権を尊重して、丁寧に関わっている姿が見られた。 ・いじめの防止や情報モラル教育の充実については、保護者への啓発が必要である。地域も一緒に家庭の教育力向上を図っていかねばならない。	生徒一人一人の人権を尊重した教職員の日々の関わりが、学校全体に浸透している。いじめ防止やSNSのトラブルについては、家庭と連携した指導体制を構築することが必要である。年度当初の保護者会で話をするなど、徹底を図っていく。				
					3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒のアンケートで、80%以上が「自分是人権を尊重して行動している」と回答した						
					2	70%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒のアンケートで、70%以上が「自分是人権を尊重して行動している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70%に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「自分是人権を尊重して行動している」と回答した生徒が70%未満						
いのち	「心の教育」の充実	・人権尊重の視点に立った教育活動の実践 ・道徳教育の充実 ・あいさつ運動の推進 ・ボランティア活動の促進	・人権尊重の視点に立った教育活動の充実を図ると共に、自他の生命を尊重し、差別・偏見をなくす指導を多面的に行う。 ・人権感覚を高める環境整備（掲示物、作品への配慮）を行う。 ・生徒が生命尊重をはじめとする道徳性を養うために、「考え・議論する」道徳の授業を継続的に実践していく。 ・道徳授業地区公開講座を充実させるとともに、道徳教育全体計画の別業を活用する。 ・「あいさつとマナーの七生中」の伝統を継承し、日常的なあいさつの励行とあいさつ運動の推進を図る。 ・ボランティア活動を促進し、生徒の心の教育の充実を図る。	4	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	2	4	生徒のアンケートで、90%以上が「道徳教育の内容を理解し実践している」と回答した	・「考え、議論する道徳」の授業が実践されている。教員が一方的に教えるのではなく、やはり生徒に考えさせることが大切である。 ・マナーやモラルについては、学校だけではなく、家庭・地域も一体となって教えていく必要がある。地域全体で子供の健全育成を図っていきたい。	アンケート結果から、教員と生徒の捉えに差があることが分かった。道徳授業の充実だけでなく、授業で学んだことを日常生活でどう実践していくか、生徒に考えさせる場面を増やしていく。また、「あいさつとマナーの七生中」をスローガンとした挨拶運動を継続していく。				
					3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒のアンケートで、80%以上が「道徳教育の内容を理解し実践している」と回答した						
					2	70%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒のアンケートで、70%以上が「道徳教育の内容を理解し実践している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70%に満たなかった。		1	生徒のアンケートで「道徳教育の内容を理解し実践している」と回答した生徒が70%未満						
支援	特別支援教育の充実	・生徒に対する適切な支援の提供 ・不登校傾向の生徒への対応と支援の充実	・校内委員会を活用し、生徒一人一人にとって効果的な支援の具体策を検討し、実践していく。 ・かしのきシート、個別支援計画を保護者と協力しながら丁寧に作成し、継続した支援を実践していく。 ・ステップ教室、リソースルームの充実により、生徒の学習意欲と自己肯定感を高めていく。 ・欠席が多い生徒に対しては、生徒の実態に応じて家庭訪問や放課後登校、C4th home&schoolの活用等を通して組織的な対応を行っていく。また、コーディネーターが中心となり、SCやSSW、関係機関等と連携した支援を行っていく。	4	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	3	4	保護者のアンケートで、90%以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した	・社会とのつながりを切らさないようにしていくことが大切であり、地域としても支援に協力していきたい。 ・校内別室の整備や生徒一人一人の状況に応じた個別の対応等、とても充実した取組が行われている。	生徒一人一人の状況を毎週の校内委員会で共有し、支援方針を決定することで、丁寧な支援や対応を行うことができている。不登校傾向のある生徒の居場所づくりを推進したことで、登校日数が増えた生徒も多くいた。今後も学校全体で組織的な支援体制を構築していく。				
					3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	保護者のアンケートで、80%以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した						
					2	70%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	保護者のアンケートで、70%以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70%に満たなかった。		1	保護者のアンケートで、「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」との回答が70%未満						
安全	安全指導の推進	・自他の生命を守り尊重する生徒の育成	・避難訓練や安全指導を計画的に実施する。 ・避難訓練、安全指導、救急救命講習、セーフティ教室等、防災・安全教育の充実を図り災害発生時に自他の生命を守る生徒を育成する。 ・地域や家庭と連携し、災害発生時の中学生の安全確保と、支援活動における中学生の役割についての理解を深める。 ・SOSの出し方教育を第1学年で実施する。 ・災害にあわれた方から話を聞き、防災・安全に対する意識を向上させる。	4	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	3	4	生徒のアンケートで、90%以上が「安全や防災への意識が向上した」と回答した	・能登半島地震を教訓にした安全指導を行ってほしい。 ・避難所運営において中学生の力は重要になる。災害時における自らの役割を意識できるような働きかけもしていきたい。 ・引き渡し訓練を今後も継続してほしい。安全確保の観点から必要だと考える。	様々な場面を想定した避難訓練を実施するとともに、全校朝礼等で定期的な安全指導を行い、生徒の安全や防災への意識を高めることができた。災害体験者から学ぶ教室の実施においては、災害時における自らの役割を意識できるような内容を検討していく。				
					3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒のアンケートで、80%以上が「安全や防災への意識が向上した」と回答した						
					2	70%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒のアンケートで、70%以上が「安全や防災への意識が向上した」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70%に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「安全や防災への意識が向上した」と回答した保護者が70%未満						
学び	キャリア教育の充実	・生徒自らの力で生き方を選択していく能力や態度の育成	・第2学年で職場体験を実施する。 ・地域人材及び事業所を活用したキャリア教育を推進する。 ・小中高の12年間を見通したキャリアパスポートを活用する。	4	4	90%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	3	4	生徒のアンケートで、90%以上が「自分の将来について考えるようになった」と回答した	・職場体験が再開されたことは非常に意義深いことであると考え ・より多くの方から話を聞くことで、たくさんの仕事に興味をもてるようにしてほしい。 ・キャリア・パスポートを活用していきたい。	総合的な学習の時間における取組と「自分の将来について考えること」が十分に結びついていないことが分かった。各教科においても社会や仕事、働き方について考えさせる場面を増やすとともに、キャリア・パスポートを活用した系統的な指導を充実させていく。				
					3	80%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒のアンケートで、80%以上が「自分の将来について考えるようになった」と回答した						
					2	70%以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒のアンケートで、70%以上が「自分の将来について考えるようになった」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70%に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「自分の将来について考えるようになった」と回答した生徒が70%未満						
地域	保護者・地域との連携	・保護者、地域と連携した教育活動の充実 ・地域行事に積極的に参加する態度の育成	・PTA、七生中育成会、親父会等に協力を得ながら、特別活動や行事の充実を図る。 ・地域人材を活用し、道徳及び総合的な学習の時間の充実を図る。 ・地域行事に積極的に参加する態度を育成し、ボランティア精神や公共心、地域貢献の意識の向上を図る。	3	4	90%以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。	4	4	生徒のアンケートで、90%以上が「日頃から保護者や地域の方々にお世話になっているので、ボランティア活動や地域貢献は必要だ」と回答した	・地域行事に多数の生徒が参加してくれたおかげで、明るい雰囲気 ・学校外でも挨拶をしてくれる生徒が多い。挨拶を交わすだけでも地域とのつながりを感じられると思う。 ・より多くの保護者の方々に地域行事に参加してもらえるよう、広く呼び掛けていきたい。	育成会主催の多くの行事が再開し、生徒が地域行事に参加したりボランティアとして運営に協力したりすることで、地域との結びつきを深めることができた。また、学校行事の運営ではPTAと協働して円滑に進めることができた。今後も意見や考えを共有しながら連携を深めていく。				
					3	80%以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。		3	生徒のアンケートで、80%以上が「日頃から保護者や地域の方々にお世話になっているので、ボランティア活動や地域貢献は必要だ」と回答した						
					2	70%以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。		2	生徒のアンケートで、70%以上が「日頃から保護者や地域の方々にお世話になっているので、ボランティア活動や地域貢献は必要だ」と回答した						
					1	具体的な取り組みに関わった教員が70%に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「日頃から保護者や地域の方々にお世話になっているので、ボランティア活動や地域貢献は必要だ」と回答した生徒が70%未満						

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。